



秘訣は何でもおいしく食べること

工藤リイさん100歳を迎える

グループホーム「八幡荘」で4月27日(木)、工藤リイさんの100歳を祝う顕彰が行われ、親族やグループホームの入居者らがお祝いしました。濱館町長から「100歳おめでとうございます。これからもまだまだ長生きしてください」と顕彰状と祝い金が手渡されると、工藤さんは「みんなが支えてくれて今日まで長生きできた。ありがとうございます」と感謝の言葉を述べていました。工藤さんは、大正6年に旧武田村に生まれ、昭和11年に工藤長四郎さんと結婚し、4男2女をもうけ、孫10人、曾孫16人に恵まれました。長四郎さんが亡くなった後も、長男家族と一緒に米づくりにいそしんできました。趣味は盆栽で、馬肉が好物だそうです。

誰からも愛される中泊メバル膳へ

中泊メバル膳が商標登録



当町の新・ご当地グルメ「中泊メバルの刺身と煮付け膳」が商標登録され、中泊メバル料理推進協議会の中畑会長が4月25日(火)、濱館町長に報告しました。濱館町長は「観光資源としての集客効果は十分にある。商標登録で町産メバルのブランド化の弾みになることを期待しています」と話しました。メバル膳のメイン食材である「津軽海峡メバル」も、小泊漁協と下前漁協が地域団体商標登録を出願しており、中畑会長は「誰からも愛される中泊メバル膳の確立に努めていきます」と決意を述べました。また5月15日(月)には、県内4つの新・おもてなしご当地グルメの合計25万食目達成記念セレモニーがはくちょう亭で行われました。25万人目は、五所川原市金木からきた野呂知世さんと母の美奈子さん。2人には新・ご当地グルメの仕掛け人であるヒロ中田さんから感謝状や記念品が手渡されました。野呂さんは「初めて食べたが刺身は弾力があっておいしい。記念にもなって忘れられない味になった」と笑顔で話していました。

希少性と保存状態が評価

キッツ舟が県文化財に指定

小泊地区の磯廻り舟「小泊のキッツ舟」が青森県有形民俗文化財に指定されました。5月9日(火)には、県教育委員会が濱館町長を訪れ、県文化財指定書を手渡しました。濱館町長は「指定は大変うれしい。貴重なものなので、これからはしっかりと保存していきたい」と話しました。キッツ舟は、馬の飼葉桶「キッツ」と似ていることから名前で、「ドゲブネ」とも称されます。現在では同様の舟はほとんど残されていないという希少性と、保存状態の良好さが評価されました。明治34年に製作され、昭和40年代まで使用されました。現在は町博物館下前分館(非公開)に收藏されています。

これからも町政発展のために

消防団長や町関係委員会委員に辞令交付

任期満了となった中泊町消防団長に長利司氏が再任され、5月1日(月)に濱館町長から辞令が交付されました。長利団長は「中泊町消防団長として、町民の安全・安心を守るために尽力したい」と決意を述べました。また、5月17日(水)、18日(木)には、それぞれ代表監査委員、町固定資産評価審査委員会、町教育委員会の委員の任期満了に伴い、再任・新任の人へ辞令交付が行われました。

■代表監査委員(任期…平成29年5月17日～)……葛西昭文委員(向町上)

■町固定資産評価審査委員会(任期…平成29年5月17日～)

阿部二郎委員(上町)・佐藤恭一委員(芦野)・太田美友委員(新町2)

■町教育委員会(任期…平成29年5月18日～)……佐井川智道委員(富野)



おいしいジャガイモ楽しみに

中里こども園が植え付け体験

中 泊町グリーン・ツーリズムの会「かけはし」(会長・前田恵美子)では、畑の学校・食卓の学校を毎年行っています。5月19日(金)、中里こども園の園児ら26人が役場となりの体験農園で、ジャガイモの植え付けを体験しました。会員の指導のもと、児童らはマルチシートに覆われたうねに「大きくなあれ、おいしくなあれ」と声を掛けながら種芋を植え、土をかぶせていきました。予定していたうね一本分を終えても子どもたちは元気いっぱいだったので、隣のうねにも植えてもらい、計500個の種芋を植えました。植え付けを体験した園児らは「大きく、おいしくなってほしい。やさしく土をかけてあげた」と笑顔で話していました。



感謝の気持ちで漁港を清掃

小泊清港会が清掃活動

港の環境保護を目的に漁師、漁協関係者、建設業者などで組織する小泊清港会(会長・成田直人)が、5月18日(木)小泊漁港内で清掃奉仕活動を行いました。この日は、漁業者、小泊漁協婦人部、(有)笹山興業、(株)斎勝建設、有志のプレジャーボート所有者ら約100人が参加しました。港内の空き缶やペットボトル、廃プラスチック、使わなくなった漁具などの回収や側溝清掃を行いました。参加者は「今日は天気も良く、日頃お世話になっている漁港に感謝の気持ちを込めて清掃した」と話していました。

今シーズン最初の陸上大会

第9回西北五春季陸上競技選手権大会

今シーズン最初の陸上大会が4月29日(土)、30日(日)に行われ、小・中学校の選手たち約540人が参加し、日頃の練習の成果を出し合いました。結果は次のとおりです。(○数字が順位となります)

■未就学児 女子60m②野藤柚香(中里こども園)

■小学生 ※中里ジュニアクラブ=中里Jr.

男子…1年100m②白塚逞人(薄市小)/2年100m③猪股海璃(薄市小)/3年100m①野藤柊吾(中里小)、②坂田光盛(中里小)、③鈴木孝樹(中里小)/5年100m①鈴木力(中里Jr.)/6年100m①鈴木龍星(中里Jr.)/共通4×100mR①中里Jr./共通走幅跳①外崎隼矢(中里Jr.)、②荒関天空(中里Jr.)/共通ジャベリックボール投①奈良知憲(中里Jr.)

女子…2年100m①木元咲希(武田小)、②坂田菜々(中里小)、③工藤玲奈(中里小)/4年100m②加藤心春(中里Jr.)、③中畑萌乃(中里Jr.)/5年100m③古川郁子(中里Jr.)/6年100m②中畑里穂(中里Jr.)/共通4×100mR②中里Jr.

■中学生 男子…1年100m②坂田陽(中里中)、③松谷温翔(中里中)/1年200m①坂田陽、②松谷温翔/共通4×100mR③中里中/共通走幅跳①佐藤風雅(中里中)

女子…1年100m②小野美羽(中里中)、③古川萌子(中里中)/3年100m②藤崎琴梨(中里中)/2年200m②中畑柚乃(中里中)、③葛西玲(中里中)/3年200m②藤崎琴梨/共通4×100mR③中里中/共通砲丸投③鈴木珊瑚(中里中)

日清食品カップ第11回西つがる北五ブロック代表選手選考会

5月14日(日)運動公園陸上競技場で行われ、西北五地区の小学生選手たち約350人が参加しました。競技は、トラック競技31種目、フィールド競技が6種目。この日は風が強く吹いていましたが、選手達は予選を突破しようと各競技に全力で挑んでいました。結果は次のとおりです。(○数字が順位となります)

男子…1年100m②白塚逞人、③坂田晴登(中里小)/3年100m①坂田光盛、②野藤柊吾/5年100m①鈴木力/6年100m①鈴木龍星/共通4×100mR①中里Jr./共通走幅跳①外崎隼矢②荒関天空

女子…1年100m③肥後愛沙(中里小)/2年100m②木元咲希、③坂田菜々/4年100m①加藤心春、③中畑萌乃/5年100m③坂田一華(中里Jr.)/6年100m②中畑里穂/共通4×100mR①中里Jr./共通走幅跳②佐藤姫来(中里Jr.)、③藤井穂華(中里Jr.)





ヤマメのいる川を目指して

こども園こども園児らがヤマメ放流

ヤマメがいる川をつくり、観光資源にしようと小泊観光協会（会長・川山光則）が5月19日（金）、小泊ダム遊仙湖付近の小川でヤマメの放流会を開催し、こども園こども園児ら11人が参加しました。園児らは、バケツに入った元気よく跳ねるヤマメにびっくりしながらも、ゆっくりと川へ放流。元気よく泳ぎ回るヤマメをみると「かわいい。大きくなってね」と笑顔で声を掛けていました。合わせて約3,000匹のヤマメが放流されました。放流が終わったあと、役場職員から「放流したヤマメは海に行くのと川に残るヤマメに別れます。海に行くヤマメは、3年後にサクラマスになって帰ってきます。3年後を楽しみにしてください」と説明がありました。放流を体験した園児らは「いっぱい川に放流して楽しかった。元気に大きくなって帰ってきて欲しい」と笑顔で話していました。

泥まみれになりながら

中里小5年生が田植え体験

中里小学校5年生が5月22日（月）、小野大海さん（八幡）の田んぼを利用し、田植え体験を行いました。田んぼに入ると初めての感触に、児童からは大きな悲鳴があがりました。足をとられながらも、少しずつ苗を植えていきました。足が抜けずに尻もちをついたり、泥だらけになった顔を見合わせ笑い合ったりと、みんなで楽しそうに田植えをしていました。田植え体験をした児童らは「泥の感触にびっくりしたが、慣れると気持ちよく楽しかった。たまに見に来てどのように成長するのか観察したい。収穫するのが楽しみ」と話していました。植えた品種はコシヒカリで、秋には稲を刈り、みんなでご飯を炊いて食べるそうです。



中里高校生徒がボランティア

山王坊日吉神社でお田植祭

中里高校では、ボランティア活動を積極的に行っています。5月14日（日）には、山王坊日吉神社（五所川原市市浦）でお田植祭が行われ、生徒8人が参加しました。生徒らは早男と早乙女の衣装をまとい、神社でのお田植祭齋行奉告祭の後、神饌田で田植えをしました。その後、地元の子どもたちも一緒に田植えをし、豊作を祈りました。参加した生徒は「田植えと神事、貴重な体験でした。最初は歩くのも難しかったが、後半はしっかりと田植えをすることができました。楽しかったので来年も参加したいです」と話していました。



皆でいきいきと学ぶ 寿大学

平成29年度北光寿大学開講式

小泊地域の住民を対象に運動教室や教養学習を行う北光寿大学（学長・柳澤良知）の開講式が5月19日（金）に日本海漁火センターで行われ、今年度の学習がスタートしました。開講式には約50人が出席し、来賓の濱館町長と山内小泊中学校校長は、この1年間元気で意欲的に学習できるようにと、聴講生へお祝いの言葉を述べました。開講式の後には第1回教養学習「みやこうたを楽しむ（講師・湊望氏）」も行われました。毎年恒例となった講座ですが、今年は趣向を変え、相撲大國中泊国技館の建設や、北緯41度の町発「しあわせいっぱいブランド」立ち上げなど、講師の考えたユーモア溢れる「ほら話」を交えながら進められました。北光寿大学の学習会は来年2月の閉講式まで、月に1度行われます。





1枚1枚思いを込めて

中里高校が全校奉仕活動

全校生徒教員が一丸となって地域貢献をしようと、今年も5月2日(火)町内各所で中里高校の生徒と教員が奉仕活動を行いました。

午前中、1・2年生は、津軽中里駅で駅舎の窓ふきや、静和園で窓や車イスのふき掃除を行いました。3年生は、同校近くの内潟療護園で、施設の窓ふきや車いすなどの介護用品のふき掃除で奉仕しました。作業を終えて生徒たちは「1枚1枚丁寧にふいた。昔の話をしてくれて楽しかった」「使う人のことを考えながらふいた。気持ちよく使ってくれたら嬉しい」と話しました。施設担当によると「今日は、普段私たちができない部分も掃除してくれて園内がとてもきれいになった。子どもたちと話しができて、利用者もとても元気になった。いつでも遊びに来てください」と高校生の奉仕活動に感謝していました。

ソーシャル・ビジネス・プロジェクト

中里高校SBP活動日誌

5月2日(火) 株元気さんを訪問し、「揚潮干餅」の作り方を見学しました。乾燥させるために、部屋一面に干された餅を見て、メンバーからは驚きの声が出ていました。その後、セレクトギフトボックスに「揚潮干餅」を入れるための仕入れ交渉を行いました。



5月12日(金) セレクトギフトボックスに大量の注文が入り、みんなで85個のギフトボックスを作りました。最初は終わるのか不安でしたが、話し合い、役割を決めながら進めていきました。疲れましたが、とてもいい経験になりました。

広告



～ライフジャケットを必ず身につけよう!～



中泊町沿岸訓練実施隊

平成29年度水産多面的機能発揮対策事業



海難救助訓練実施
日時 6月16日(金)
13:30～

場所 小泊漁港内
問 中泊町沿岸訓練実施隊事務局
TEL 64-2641